

南会津 のうりんニュース



トピックス

館岩地区林業振興協議会が 「林野庁長官賞」を受賞しました

平成29年2月27日(月)と28日(火)にオリンピック記念青少年総合センターで開催された「平成28年度全国林業グループコンクール」において、館岩地区林業振興協議会女性部が北海道・東北ブロック代表として発表し「林野庁長官賞」を受賞しました。

館岩地区林業振興協議会では、若い世代が五感を使って森林や森林文化に触れることで、生まれ育った地域の森林の大切さを感じるための機会づくりをしたいという思いから、平成27年4月に女性部を設立しました。今回の全国大会では、幼稚園児とその保護者を対象にしたドングリ拾いやヤマザクラの植栽を通して、森林に対する親しみを深める活動や「団子さし」等の山村文化を伝える活動を報告しました。



全国林業研究グループ連絡協議会と
館岩地区林業振興協議会のみなさん

(森林林業部)

第184号(平成29年3月)

今号の写真:第45回只見ふるさと雪まつり

《目次》

●トピックス

- ・ 館岩地区林業振興協議会が「林野庁長官賞」を受賞しました
- ・ 山ブドウを活用した新たな特産品開発講習会を開催しました
- ・ 「新・農業人フェア」に出展しました
- ・ 宿根カスミソウ技術革新セミナーを開催しました
- ・ 青年農業士が認定されました
- ・ 「第45回只見ふるさと雪まつり」で6次化商品をPRしました
- ・ 田部地区のほ場整備が始動しました
- ・ 平成28年度あいづ“まるごと”ネット第3回交流会を開催しました
- ・ 農林土木技術研修会を実施しました

●農林事務所からのお知らせ

- ・ 山火事にご注意を
- ・ 平成29年から「里山のつづ」の一般栽培が始まります!
- ・ 山菜の採取・出荷を行う皆様へ

●コラム

- ・ ～木材の利用を進める～ 第5回テーマ「南会津の木材」

平成29年 3月13日発行 福島県南会津農林事務所

山ブドウを活用した新たな特産品 開発講習会を開催しました

当事務所では、檜枝岐村における山ブドウの生産振興と新たな特産品化の取組を支援するため、平成26年度から栽培指導や県内外加工所への先進事例調査等を行っています。

1年間の事業のまとめとして、2月6日(月)に檜枝岐村東雲館で講習会を開催し、20名が参加しました。

(株)山際食彩工房 代表取締役の山際博美氏を講師に迎え、山際氏考案による檜枝岐村産山ブドウを使用した3品(「山ブドウ入り紅葉漬け」「山ブドウ入りござきねり」「山ブドウ入り豆腐かまぼこ」)について、山際氏の直接指導のもと調理実習を行うとともに、参加者による試食と今後の商品開発に向けた活発な意見交換を行いました。

当事務所では、引き続き、管内の地域産業6次化の取組を支援してまいります。



山際氏による講習会の様子

(企画部)

「新・農業人フェア」に出展しました



南会津の農業について語る様子

2月18日(土)、池袋サンシャインシティ(東京都豊島区)において(株)リクルートジョブズ主催(農林水産省補助事業)による「新・農業人フェア」が開催され、南会津農林事務所ブースを出展し、就農相談及び「南会津ふるさとワークステイ」のPR等を行いました。

当日は、南会津町、JA会津よつばみなみ地区本部の職員の協力を得て、ブース来場者へ南会津のPRと、南会津の農業を体験できる「南会津ふるさとワークステイ」への参加を呼びかけました。

また、南郷トマトでの就農を例に、研修の実施や就農後の支援体制についても説明しました。

当事務所では、引き続き、新規就農希望者への情報発信を続けてまいります。

(企画部)

宿根カスミソウ技術革新セミナーを開催しました

2月27日(月)、宿根カスミソウ産地のさらなる発展に向けて「電照栽培技術」をテーマとしたセミナーを開催しました。南会津を中心とした県内の宿根カスミソウ生産者及び関係者等44名が参加しました。

まず、福島県農業総合センター会津地域研究所が研究成果の発表を行い、続いて南会津農林事務所から平成27年度より開始した実証試験結果につ



セミナーの様子

いて報告しました。また、JA会津よつば洋花部としお会かすみ草部の菊地敏雄部長から、ご自身の体験をふまえた電照を取り入れた栽培技術について発表いただきました。本セミナーは、参加者が「電照栽培技術」と他地域の取組みを学ぶ良い機会となり、宿根カスミソウの生産振興へ士気が高まりました。

(農業振興普及部)

青年農業士が認定されました

2月1日(水)、福島市において、平成28年度福島県農業士認定証交付式が行われました。当地方からは、南会津町の渡部雄己ゆうきさんが新たに青年農業士に認定されました。地域の若い農業者の牽引役として活躍が期待されます。



渡部雄己さん

(農業振興普及部)

「第45回只見ふるさとの雪まつり」で6次化商品をPRしました



あすどら

PRの様子

2月11日(土)、JR只見駅前で「第45回只見ふるさとの雪まつり」が開催され、アスパラガスのペーストを餡に練り込んだどら焼き「あすどら」等をPRしました。

「あすどら」は喜多方市の県立耶麻農業高等学校生徒が企画し、会津若松市内の菓子メーカー2社と協力し開発した商品で、今回は限定品としてJAの農産物ブランド「会津田島アスパラ」の未利用部位のペーストを使用して作られました。

当日は、この「あすどら」を「只見線応援団」に加入した来場者へのプレゼントとして配布しました。その美味しさは会場内で口コミで広がり、用意した200個はイベント開始後2時間足らずでなくなるほどの盛況でした。

(企画部)

田部地区のほ場整備が始動しました



田部地区全景

調整の様子

南会津町「田部地区」は、平成29年度初めに、ほ場整備工事に着手します。本地区は、農業者の所得向上を目指す「農業競争力強化プログラム」の一環として、担い手への集積、大区画化による営農の効率化を目的に、平成28年度に国庫補助事業として採択となりました。

これまでに調査・設計や地元関係者との調整を進め、約31ヘクタールの区画整理、道水路の整備などを平成32年度までに完了する予定としています。

計画に当たっては、受益者と工事担当である県、土地改良区、水土里ネット福島、農業振興公社で細部にわたる調整を重ね、この度、工事着手の運びとなりました。

今後は、本地域の振興作物であるトマト、アスパラガス、花卉などの高収益作物への転換などを関係者と調整しながら、受益者がより収益性の高い農業を目指せるよう支援してまいります。

(農村整備部・農業振興普及部)

あいづ“まるごと”ネット第3回交流会を開催しました

2月16日(木)、道の駅あいづ湯川・会津坂下において、「あいづ“まるごと”ネット第3回交流会」を開催し、地域産業6次化に意欲と関心のある農林業者等96名が参加しました。



試食会・求評会の様子

第1部では、「売れる6次化商品の開発と売れ続ける仕掛け作りについて」と題して(株)ユーユーワールド 新規事業開発推進部執行役 白濱一久氏を講師に招き、同社の目玉商品である「ご飯にかけるとおいしい」を例に講演を行いました。

また、第2部では、会津坂下町の県立会津農林高等学校食品加工科・農業園芸科の生徒が自ら開

発した「こでらんにぷりん」の発表や会津伝統野菜の栽培活動報告を行ったほか、第3部の求評会には、会津・南会津管内から8事業者が出展し、アドバイザーから、今後の商品改良に向けた講師助言が行われました。なお、南会津町からは、菓子工房シュクレが「アレルギー対応かぼちゃクッキー」を出展しました。

(企画部)

農林土木技術研修会を実施しました

当事務所では、1月及び2月の2回に分け、所内の農林土木事業担当職員を対象に「農林土木技術研修会」を実施しました。最初の講義では、昨年策定された「工事請負設計変更ガイドライン」について、適正な時期に工事の設計内容を変更するためのポイント等を学びました。今後の請負者との協議の場で活用していきます。

次の講義では、農林道に設置する重力式擁壁(土留)の強度をより安全に保つために必要な技術等について、基本を意識しながら理解を深めました。今回の研修会で学んだことを活用し、今後の設計において、農耕車等の車両が常に安全に通行できるように設計を進めてまいります。



研修会の様子

(総務部)

農林事務所からのお知らせ

山火事にご注意を

4月1日から5月31日は南会津地区春の山火事予防運動強化月間です。春は空気が乾燥し、風の強い日が多いため、山火事が発生しやすくなります。

平成27年の全国の山火事発生要因で最も多いのは「たき火」次いで「火入れ」となっています。このことから、住民の皆さんに火の取扱いに注意してもらうことで、山火事の減少につなげることができます。

南会津の豊かな山の緑を守るため、山火事ゼロを目指し、火を取り扱う際には以下の点に注意しましょう。

- ① たき火の後始末を徹底する。
- ② 煙草を投げ捨てない。
- ③ 強風及び乾燥時の火気使用は避ける。
- ④ 火入れの際は予め町村に届出を行い、火の始末を完全にします。

(森林林業部)

平成29年から「里山のつぶ」の 一般栽培が始まります！

「里山のつぶ」は、福島県が開発したオリジナル水稲品種です。県内の冷涼な里山で広く栽培される品種になって欲しいと願い、命名されました。



「里山のつぶ」生育状況

「里山のつぶ」の栽培適地は標高300m以上の中山間地で、同地域で栽培されている「あきたこまち」に比べると、出穂期・成熟期は2日ほど遅くなります。倒伏しにくく、いもち病や低温に強いので、栽培しやすい品種です。米粒は大きく、収量は「あきたこまち」に優ります。また、食べたときにしっかりとした歯ごたえと適度な粘りが感じられ、食味評価試験では「あきたこまち」に優る良食味品種でした。

みなさん、ぜひ栽培してみませんか？今年も「里山のつぶ」の「拠点展示ほ」を設置いたしますので、生育状況等興味のある方は農業振興普及部地域農業推進課まで、お問い合わせ下さい。

電話番号：0241-62-5262

(農業振興普及部)

山菜の採取・出荷を行う皆様へ

県では、山菜について品目毎に市町村単位で緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しています。

平成23年度から行ってきた検査の結果、南会津管内では下郷町・只見町・南会津町の「コシアブラ」について、出荷制限が続いています。

また、福島県内外において、摂取制限及び出荷制限となっている市町村がいくつかあるため、これらの市町村産の山菜は、出荷販売及び宿泊施設等での提供をしないようにお願いします。

なお、出荷制限のない市町村で採取された山菜についても、今シーズンのモニタリング検査で安全が確認されてから出荷販売及び宿泊施設での提供を行うようご協力をお願いいたします。検査結果は新聞やホームページなどで公表されますのでご確認ください。

お問い合わせはこちら

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a>

電話 0241-62-5252 FAX 0241-62-5256

また、例年、山菜と有毒植物の間違いによる食中毒が発生しておりますので、注意してください。

(森林林業部)

コラム

～木材の利用を進める～ 第5回テーマ「南会津の木材」

南会津郡は優良広葉樹材の生産地として、昭和30年代には年間38万^m³(現在34千^m³)の素材を生産していました。当時は、広葉樹材の集出荷基地の機能を持ち、大径材の製材・加工を始め、家具やフローリング、楽器、玩具などの木材加工業が発達し、林産業を基幹産業に栄えていましたが、昭和50年代後半から優良広葉樹資源の減少やその後の生態系保護地域の指定、安価な外材の流入によって、素材生産は著しく減少しました。

しかし、その殆どの木材加工技術は継承され、近年、その技術力の高さにも注目が集まっています。特に無垢材による家具や玩具、雑貨、クロモジから抽出したアロマオイルなど、資源の有効活用が進んでいます。

また、最近、注目されているカラマツ材は、合板のフェイス材(表面用)として取引される一方、スギに比べ強度があり、耐候性に優れていることから、木道、外壁、デッキなどに使われるなど、有効に利用されるようになりました。

現在、全国的に、戦後植栽した森林が成熟期を迎えています。これからは、伐採(利用)→再造林→保育→そして伐採(利用)するという「循環利用」がキーワードになってきます。木材を家具や住宅資材として永く利用したり、薪としてエネルギー利用することが、森林を元気にすることになり、災害から私たちを守ったり地球温暖化の防止に繋がってきます。



大ケヤキの製材(南会津町岩館地区)

(森林林業部)



みなさんのご意見・ご感想を
お寄せください。